

## 平成27年度 多職種連携研修 実施報告

## 第1回

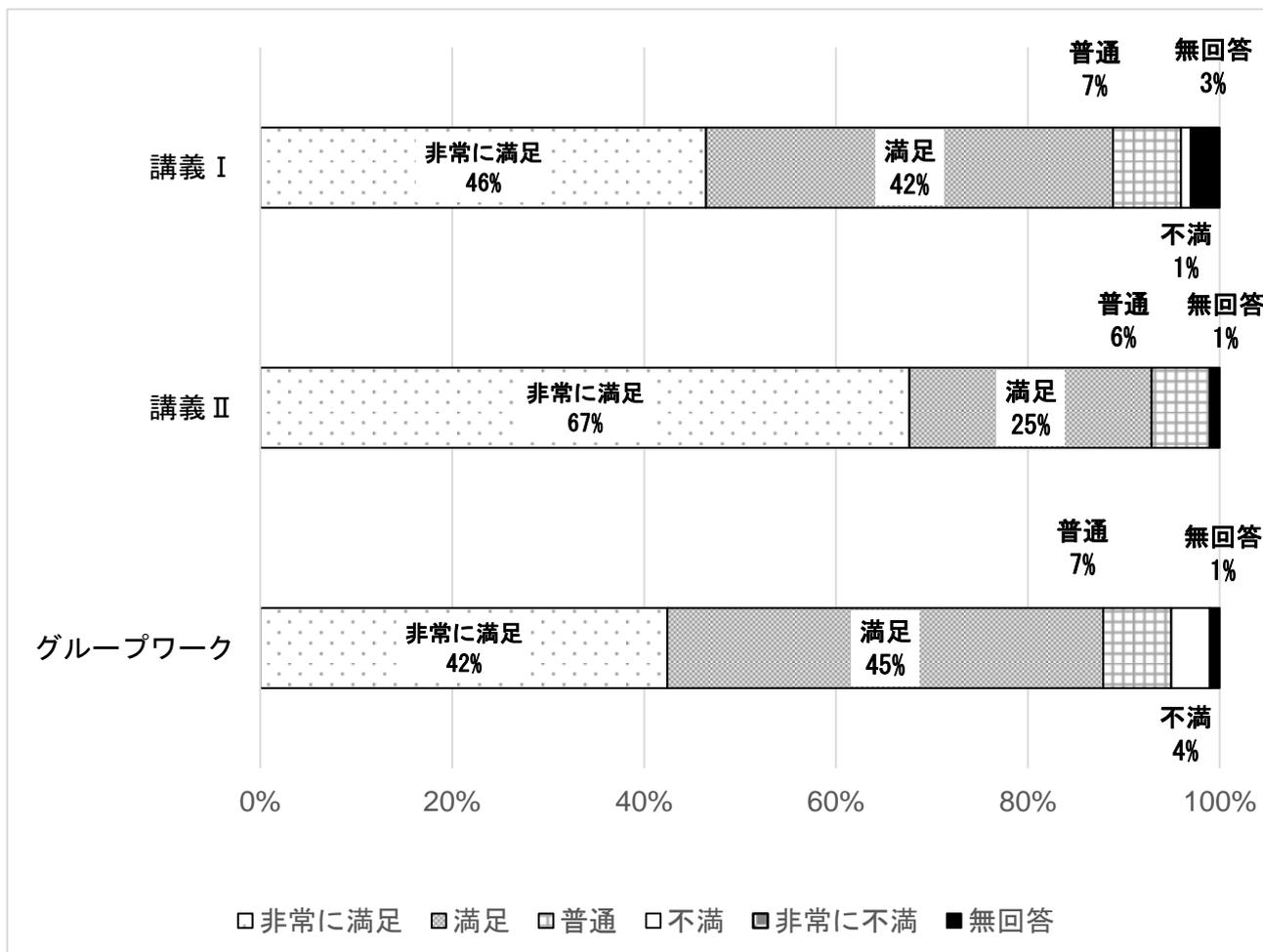
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練馬区内の多職種によるチームづくりの促進</li> <li>・ 在宅療養を推進する地域の在り方について考える</li> </ul>
実施日	平成27年12月19日（土） 14:00～18:30
プログラム	<p>○講義Ⅰ 地域における多職種連携の意義 講師：岡田医院 岡田徹也 先生</p> <p>○講義Ⅱ 在宅緩和ケアとは…～自宅で看取るには～ 講師：要町病院 吉澤明孝 先生</p> <p>○グループワーク テーマ：終末期の多職種による在宅療養支援 アドバイザー：岡田医院 岡田徹也 先生</p>
参加者	<p>事前申込者数 86人 参加決定者数 73人 最終参加者数 69人（参加率95%）※8～9人×8班</p> <p style="padding-left: 40px;">医師 14人 歯科医師または歯科衛生士 2人 薬剤師 3人 看護師 11人 MSW（退院調整等） 2人 リハビリテーション職種 3人 ケアマネジャー 18人 介護職 10人 高齢者相談センター職員 6人</p>

【アンケート結果】抜粋

アンケート回答者数 67人 (回収率 97%)

1. 満足度

各講義およびグループワークについて、それぞれ約9割の方が満足したと回答した。



## 2. 満足度の自由意見（※抜粋前）

### ○講義Ⅰ「地域における多職種連携の意義」について

- 改めて他職種の連携の大切さと難しさを感じました。なかなかその時の状況を全員が共通理解・認識を持つ事が難しいなかで、SNS等を利用した連携という形もあるんだと知れてよかったですと思います。
- 地域包括ケアを行うために多職種で目的を明確に、情報を共有し支援していく体制が必要なことが改めて大切だと感じた。
- 「入院当初からの在宅側スタッフの積極的な介入による早期在宅復帰実現」のところで、「練馬区は病院が少ないから」という理由で説明されていましたが、それは違うと思います。在宅療養の環境を整え、こういう方向性にしようという枠組みを行政、関係する医療機関それぞれがもっと同じ方向性をもつべきなのではありませんか？

### ○講義Ⅱ「在宅緩和ケアとは…～自宅で看取るには～」について

- 緩和ケアと連携の在り方が理解でき、症状緩和できるケア、在宅看取りのための準備や看取りの経過（死前教育）についてわかりやすく説明いただき、今後の支援に活かしたいと思った。
- 在宅での看取りということに関して、ほぼ知識がない中で、今日の講義を聞き、イメージとしてつきやすくなったと感じました。実際、今後そのようなケースに関わっていくこともあると思いますが、今日の講義で学んだことを活かしていければと感じました。
- 職は違っても同じようにその人の思いは何かを考え、その職での知っている・できる事は様々で、それらを学べてよかったです。

### ○グループディスカッションについて

（大変満足）

- 職種毎に様々な視点から意見を伺うことができ、多職種で地域包括ケアへつながる、ケアができると感じた。
- いつの間にか全員が立ち上がって夢中でやっていました。いろいろな視点が分かりやすかったです。
- 色々な人と話を出来ることは良い事でした。特に、医師の方とこのような話ができるのは良いと思いました。
- 自グループの討議だけでなく他のグループ発表の中で色々な考え方や視点を知ることができて勉強になった。
- グループワークへの説明が不十分。ファシリテーターがいるのであれば円滑な進め方や議題に関する説明がほしかった。